

除 草 剤 2 0 年
受 賞 者 の 横 顔

松 尾 孝 嶺 氏



生れ；明 4 5. 福岡県八女郡
住所；東京都杉並区和泉 2 -
3 5 - 1 7

現職；東大農学部教授
経歴；昭 9. 東大農卒。農博。
昭 9. 農事試験場助手，奥羽
試験地技手，新潟農試技師，

農事試験場技師，鴻巣試験地主任，農林省農業
改良局研究企画官を経て，昭 2 6.より現職につ
く。2, 4 - D がわが国に始めて導入された頃，
水稲担当の研究企画官として全国の農業試験場
関係者の協力のもとに 2, 4 - D による水田雑草
防除試験を開始し，その成績をもとに全国地域
ごとの 2, 4 - D 使用の基準を設定し，初期にお
ける除草剤の普及に貢献した。現在は，東大農
学部において育種学講座を担当し，また日本学
術会議の会員として科学技術研究の長期計画を
推進している。
家庭は，老夫婦だけで，1 女 1 男はそれぞれ独
立。趣味は，車の運転，ゴルフは庭で球をたた
く程度。

星 野 武 氏



生れ；明 4 0. 札幌市
住所；札幌市琴似 3 条 4 丁目
現職；三井東圧化学（株）札
幌支店，技師（農薬担当）
経歴；昭 6. 北大農実卒。同
年北海道農試助手，農林技師，
昭 1 4. 日高分場長，昭 1 8.

天塩分場長，昭 2 1. 女満別変類試験地主任を経
て昭 2 5. 北海道農務部農業改良課，専技資格，
昭 4 2. 退職まで試験研究並びに普及事業に従
事，昭 2 8. 除草剤 2, 4 - D が初めて北海道に
普及されて以来，畑作除草剤の普及指導の担当
専技として，実用化除草剤の現地確認園，除草
体系確立現地試験を手がけ，また毎年度北海道
庁で刊行の「除草剤使用基準」の畑作部門を担
当執筆し，除草剤使用技術の普及に貢献。退職
後は，大日本インキ化学工業（株）を経て昭 4 3.
三井化学（株）に入社し現職に至る。その間，
除草剤の普及推進に努める。家庭は夫妻のみ，
一男二女は既に結婚，趣味は，囲碁，謡曲，園
芸。

7. SHAW, D. R., D. R. SHEPHERD, E. F. ROBINSON, and P. SAND: Recent
advances in witchweed control, weeds 10(3), 182-191(1962)

8. 日本植物調節剤研究協会：昭和 4 0 年度植物の休眠覚醒剤の合成とその利用法の確立に関する試験成績書 追補一植
物休眠覚醒剤に関する文献集録一（1966）

9. 竹島修二・石原信一郎・沢豊則・山崎欣多：水田休閑期におけるノビエ防除に関する研究 オ 1 報 ノビエ種子に対
する各種薬剤による休眠覚醒について，日本雑草防除研究会オ 5 回講演会講演要旨（1966）

10. 千坂英雄・片岡孝義・荒井正雄：タイムピエ休眠種子の薬剤による休眠覚醒および殺種子に関する研究 オ 2 報
薬液浸漬処理における有効薬剤の効果の変動要因，日作紀 36(3), 326~331(1967)

11. 千坂英雄・片岡孝義・荒井正雄：タイムピエ休眠種子の薬剤による休眠覚醒および殺種子に関する研究 オ 3 報
土壌を媒介とした処理における数種薬剤の効果，日作紀 36(3), 332~337(1967)

12. 植木邦和・清水矩宏：ヤエムグラ種子の休眠覚醒作用に関する研究 オ 2 報 化学物質に対する種子の反応，雑草研
究(6), 30~33(1967)

13. 植木邦和・清水矩宏：タイムピエ種子に対するハロゲン化脂肪酸エステル類の殺種子および休眠覚醒活性，雑草研
究(7), 110~115(1968)

14. 植木邦和・清水矩宏：タイムピエ種子の休眠覚醒作用に関する研究 オ 1 報 数種化合物の休眠覚醒効果，日作紀
38(2), 261~272(1969)

受 賞 者 の 横 顔

宮 川 健 一 氏



生れ；大 1 5. 愛媛県宇和島市
住所；長野県須坂市春木町

1 0 7 7 の 7

現職；長野県園芸試験場果樹
部長

経歴；昭 2 6. 東大農卒。昭 2 6. 長野県園芸
技師，以後同場研究員を経て昭 4 2. 現職につ
く。その間，リンゴの収穫前落果防止法として
の 2, 4, 5 - T P, ナフタレン醋酸の利用法を確
立。また，リンゴの薬剤摘花法としての石灰硫
黄合剤，摘果法としての N A C および補助剤と
しての介面活性剤の利用法の研究に従事した。
現在，「早熟地帯におけるリンゴの質的向上」
を課題とする共同研究の主査として，広範な試
験を推進するなかで，被膜剤によるゴールデン
デリシャス無袋栽培法の確立，B ナイン利用に
よる早熟地帯スターキングの果肉軟化防止法の
確立については，特に力を入れている。

家庭は，夫妻のほか 2 女。趣味は，読書。

藤 巻 竹 千 代 氏



生れ；大 4. 岩手県石鳥谷町
住所；盛岡市新庄小杉山 2 6

— 5

現職；岩手県立農業試験場長
経歴；昭 7. 盛岡農校卒。昭

9. 農試練習生後，県農試胆江分場，華北産研，
華北農試軍糧城支場，戦後再び県農試勤務。岩
手県庁農業改良課に移り，専技（稲），農業改
良課長を経て昭 4 3. 現職につく。昭 4 2. ヨ
ーロッパ出張，昭 2 8. ころまで，除草剤は盛
岡，秋田を結ぶ線から北の寒冷地は使えそうに
ないといわれたが，現場と試験場を結んで実用
化，体系化に意欲的にとりくみ，着実な普及に
努力，後，県全域に普及した。

趣味は，テニス，卓球で，今でも若い人達と元
気にやっている。

編 集 後 記

木枯らしが吹きすさび，落ち葉が地上で舞い
踊る師走の巷では，今年 1 年のしめくくりで大
わらわであるに違いない。

当誌も発刊以来，3 星霜を経たが，その内容
充実を意図しつつも，取材がこれに伴わず，
とうとう本号まで来てしまった。諸者各位より
は，いろいろとご高見をたまわりながら，ご期
待にそい得なかったことは，まことに残念であ
ります。当誌の編集にあたっては，過去におい
て，除草剤，生育調節剤の開発，普及に関する
各種資料の収録につとめてきたつもりであった
が，時間・予算の関係上，貴重な資料を収録で

きなかったことにつき，深くおわび申し上げます。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町 2 6 番地

電話 東京(03)5 0 2 - 4 1 8 8 ~ 9 番

昭和 4 4 年 1 2 月発行

植 調 第 3 卷 第 9 号 ￥ 7 0 (送 料 3 5)

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 河 田 宏

発行人 植 調 編 集 印 刷 事 務 所 田 口 宏

東京都豊島区池袋本町 4 丁目 4 9 番 3 号
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電 話 (9 8 6) 1 0 6 3 番